



October 2010

# 大阪大学図書館報

vol. 44 no. 2 通巻 173号

発行所 大阪大学附属図書館 2010年10月1日発行  
 〒560-0043 豊中市待兼山町1の4  
 e-mail: kohowg@library.osaka-u.ac.jp



- 大学生と読書 …P. 1
- 谷文晁「帰馬放牛図」に描かれた花—懐徳堂展によせて— …P. 3
- 法学研究科資料室へ行ってみよう! …P. 5
- 教員著作寄贈図書のご紹介 …P. 7
- News 図書館からのお知らせ …P. 7

## 大学生と読書

阿部武司



大学生が教科書も含めて学術書を読まなくなったと聞くようになってから久しい。大学で長年講義やゼミを続けてきた私の経験から見て、最近では学部生だけでなく大学院生まで含めてその説は当たっているように思われる。現代の若者たちは書物に頼らなくても様々な情報の入手源を持っているから、そうした傾向にむやみに目くじらを立てる必要はないという意見もあるかもしれない。とくに知りたいことに一応の解答を瞬時に与えてくれるインターネットの存在は、「学術書などはや要らない。ウェブからはあらゆる知識が得られるのだから」などという主張の正しさを裏付けるかのように見える。しかし、そこにあふれている情報のかなりの部分が信用するに値しないことを忘れてはならない。某新聞社の記者が Wikipedia に書かれていた誤った情報を無批判に記事に流用して問題になったことが新聞に載っていたが、ウェブからは慎重に情報を選ばないと、取り返しのつかない誤りを犯しかねないのである。

しかも、断片的知識をいくら入手したところで、それらは粘り強い思考力には決して直結しない。平凡な主張ながら私は、学生時代には簡単に理解できない書物、あるいは分厚い書物を読む訓練を通じて深い思考力を養っておくべきだと思う。ゼミなどで学生と輪読していて気付くのは、1冊の書物を初めから終わりまで読み通す習慣をつけている学生が少ないこと、しかも1週間に割り当てるページ数を、例えば100ページ以上にすると十分に内容を消化できない報告者がしばしば出現することである。

それに対してアメリカの一流大学では、教員が毎週500ページ位の書物1冊を学部学生に割り当てて、1週間後に1時間で全てを要約させるというようなことが自然に行われているとしばしば耳にする。言うまでもなくITの老家本元のアメリカで、優秀な学生がITを利用する一方、学術書の読破に追われて

いるという一見古臭い事実の重みを日本人は十分に認識しなければいけない。アメリカの優秀な人々は、学生の時から大量のページ数を速く正確に読みこなせるように訓練されているのである。

先に見た日本での状況も教員の指導、あるいは先輩や友人との交流を通じて改善できるように思われる。私が東京大学に入学した 1972 年には大学紛争の名残りが強く残っており、大学生がマルクスやサルトルを読むこともまだ盛んだった。当時の東大では東京駒場の教養課程に在籍する 1、2 年生向けのゼミが多数開講されていた。それらの内容は千差万別であったが、マックス・ウェーバーの『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』（もちろん邦訳ではあったが）をテキストとするゼミが複数あったことなどを記憶している。現在ではこうした古典があまり読まれなくなっているようだが、今から 40 年近く前には大学に入って間もない学生もそうした難しい書物を読もうとする風潮が存在したのである。

私も、のちに勉強する予定であった経済学にはあまりこだわらず、いくつかのゼミに出席してみた。とくに記憶に残っているのは 2 年生の時に 1 学期だけ出席した、新進気鋭の政治学者佐藤誠三郎助教授のゼミであり、当時はやりの日本人論がテーマであった。定員 20 人程度のところにおそらく 50 人以上の志望者が集まったが、選抜は 3 冊の指定された書物を要約した 400 字換算 10 枚の文章の提出であり、それに応じた人数は大体定員通りであり、全員の出席が許可された。その後の授業では毎週 1、2 の書物を全員が必ず読んでくることが求められ、その証拠として簡単なレジュメを全ての出席者が提出しなければならなかった。授業終了時に約 20 冊を読破できた 20 歳代初めのこの経験は、私に大きな自信を与えてくれ、さらに、その後の学術書の読破を容易にしてくれた。この佐藤ゼミは 1967 年に始まり、佐藤先生の米国ご留学の 2 年間を除いて 20 年余り続いた。受講生にはその後、研究者あるいは政治家として大成した人も含まれ、現在東京大学教授の御厨貴氏や民主党政権の外務大臣を務めておられる岡田克也氏も私と同じ頃に受講していたそうである。学生に多読と討論を厳しく求めた佐藤先生は、その厳しさゆえに、後日才能を開花させる優秀な学生たちを引き付け、彼らに多大な薫陶を与えたのに違いない。

私の学部生時代には佐藤ゼミのような少人数授業に参加するほか、学生同志のサークルや研究会にも積極的に加わり、そこで書物を輪読する学生が珍しくなかった。煙たい教師がいない学生だけの集まりは、それ自体楽しいものであり、歯に衣を着せない相互批判の中で、一人では読めない難解な本や大部な本を読破する得がたい機会であった。教養課程の時、歴史科学研究会というサークルに所属していた私は、入学時にまったく知識がなかった日本の社会科学の水準を比較的に高めたといわれる昭和戦前期の日本資本主義論の意義を仲間から教わり、石母田正、永原慶二、神島次郎などの著作を、十分に理解できないながらもとにかく読み進めていった。

駒場から本郷に進学した 3 年生以降には、当然のことながら専門の経済学の勉強が中心にはなったものの、そこでも演習と呼ばれていたゼミと、友人や先輩たちとの読書会には積極的に参加した。

法人化以後の国立大学では教育が重視されるようになった。私の学生時代の大学における教育、とくに大教室での講義には確かに問題が多かった。それらが大幅に改善されつつあるのはまことに結構なことである。ただし教員が学生に、パワーポイントなどを使ってわかりやすく教えることも重要かもしれないが、難解なあるいは大部の重要な書物をきちんと読みこなせるように指導することは、現在でもなお必要であろう。さらに学生諸君自身が、教室の外で友人や先輩と読書会を開き、自由に議論を闘わすことも有益と思われる。世の中が時々刻々と変化していく今日、時間をかけて古典や専門書を読むことは難しいのかもしれないが、逆説的ながら、こうした時代にこそ学生は、落ち着いてゆっくり読書を楽しむことが肝要であろう。世の中を良くしていくには粘り強い思考力が不可欠であり、その力を養うのには読書が極めて有効であるからである。

(あべ・たけし 附属図書館副館長・経済学研究科教授)

# 谷 文晁「帰馬放牛図」に描かれた花 — 懐徳堂展によせて —

湯 浅 邦 弘



これまで見えなかったものが見える——。その感動の瞬間に立ち会うことができた。

平成 21 年、懐徳堂文庫の内の貴重資料 32 点が修復されることになった。すでに 200 年の歳月を経て、資料の劣化は急速に進んでいる。まさに喫緊の課題であった。幸いに、大阪大学後援会のご支援により、修復が進められることになった。

しかし、この計画に漏れてしまった重要資料があった。「帰馬放牛図」二幅（各 177.0×89.9）である。これは、江戸時代の懐徳堂に由来する大型の絵画である。中井竹山が学主を務めていた頃、関西に赴いた文人たちは必ず懐徳堂に立ち寄ったとされる。当時、関西で「学校」と言えば、懐徳堂を意味した。

そうした懐徳堂に一人の画人が訪れた。谷 文晁（たに ぶんちょう：1763～1840）である。文晁は江戸南画の大成者。円山応挙、狩野探幽とともに「徳川時代の三大家」と称せられる。その文晁が懐徳堂に逗留した際、中井竹山の求めに応じてふすま絵を描いた。寛政八年（1796）のことである。その絵は講堂のふすま絵として掲げられ、懐徳堂の教授たち、受講生たちの目に触れた。しかし、懐徳堂の閉校に際し、この絵はふすまからはがされ、中井家子孫の木菟麻呂（1855～1943）に託された。

明治の終わり頃、懐徳堂記念会が発足し、懐徳堂の顕彰運動が始まった。明治 44 年（1911）、この絵は表装され、大阪府立図書館に寄託された。そして昭和 8 年（1933）、重建懐徳堂（大正 5 年に再建された懐徳堂）に寄贈された。しかし、保存状態が良くなかった。ふすまからはがされ、いわゆる「まくり」の状態、この絵は保管されていたようであるが、恐らく鼠にかじられたのであろう。所々に大きな穴があいている。また、長年、講堂のふすま絵として掲示されていたため、日焼けが著しい。「帰馬放牛図」と言われても、どこに馬や牛が描かれているのかさえよく分からない状態であった。

だが、この絵を何とかよみがえらせた。そうした関係者の情熱がようやく実を結ぶ時がきた。平成 21 年度の財団法人朝日新聞文化財団の文化財保護助成に「帰馬放牛図」の修復が採択されたのである。

修復は順調に進み、平成 22 年 4 月、作業を担当された京都の（株）大入から、修復を終えた「帰馬放牛図」が帰ってきた。見事に軸装された絵がおごそかに広げられた。すると馬や牛が、そして草花が、はっきりと見える。経年による汚れを脱色し、「帰馬放牛図」は 200 年前の姿にかなり近づいていた。残念ながら、鼠に食われた欠損部分はどうしようもない。しかし、絵の構図ははっきり確認できる。

ただ、これまで見えなかったものが見えるようになって、新たな疑問も浮かんできた。この絵の主題は何なのか。馬や牛は何を意味しているのか。またそこに描かれている花木は何の花なのか、という疑問である。

この絵の主題については、すでに美術史の専門家による指摘がある。「高峰に見守られた豊かな土地でのびのびと育つ学生に見立てられたもの」（奥平俊六、『新修豊中市史』第六巻所収、「帰馬放牛図」解説）というのがそれである。

ただ、この解説の前には、少し補足が必要であろう。「帰馬放牛」とは、もともと中国の古典『書経』のことばである。周の武王が殷を討ち、ようやく戦乱が収まった。その様子を「武を 偃（ふ）せて文を修め、馬を 華山（かざん）の陽（みなみ）に帰し、牛を桃林（とうりん）の野に放つ」と説く（武成篇）。

とすれば、「帰馬放牛」とは、軍事に徴用された牛や馬を自然の地に帰したことを指し、戦乱の終息を讃えたものと言えよう。もちろん、文晁にとっての戦乱の終わりとは、江戸時代の到来に他ならない。中井竹山も、徳川家康の一代記『逸史（いっし）』を記し、家康による「元和偃武（げんなえんぶ）」を讃えている。したがって、この文晁の「帰馬放牛図」とは、なによりもまず、江戸幕府開闢以来の太平の世を賛美するものであった。そうした平和の上に立つてこそ、懐徳堂での教育や研究もできる、という意識なのであろう。

このように考えてみると、「帰馬放牛図」の「帰馬図」に描かれた山と「放牛図」に描かれた花について、一つの推測が可能となる。文晁が『書経』武成篇のことばを強く意識していたとしたら、その山は「華山」(中国五岳の一つ)、花は「桃」であった可能性が高い。武成篇には、「馬を華山の陽に帰し、牛を桃林の野に放つ」とあった。

ともあれ、こうした推測を可能にしてくれたのも、貴重な資料が見事に修復されたからである。そして、この秋、この「帰馬放牛図」を含め、多くの懐徳堂資料が約二ヶ月にわたって公開される。懐徳堂の資料展は戦後も何回かあったが、それらはみな数日の短期間で、これほど長期の資料展が開催されるのははじめてのことである。「帰馬放牛図」の花を是非ご自身の目で確かめていただきたい。

(ゆあさ・くにひろ 文学研究科懐徳堂研究センター長・附属図書館研究開発室室員)

## 懐徳堂記念会創立 100 周年記念事業

### 懐徳堂展—大阪“知”の源流—

- 【会 期】平成 22 年 10 月 27 日(水)～平成 22 年 12 月 20 日(月)
- 【会 場】大阪歴史博物館 8 階特集展示室(常設展示場内)
- 【開館時間】午前 9 時 30 分～午後 5 時まで(金曜日は午後 8 時まで) ※入館は閉館の 30 分前まで
- 【休 館 日】毎週火曜日
- 【観 覧 料】常設展示観覧料でご覧になれます  
大人 600 円(540 円) 大高生 400 円(360 円) ※( )内は 20 名以上の団体割引料  
中学生以下・大阪市内在住の 65 歳以上の方(要証明書提示)、障害者手帳をお持ちの方(介護者 1 名を含む)は無料
- 【主 催】大阪大学・大阪歴史博物館・財団法人懐徳堂記念会

### 専門家による展示資料解説(懐徳堂アーカイブ講座)

- 【開催日時】11 月 3 日(祝)午後 1 時 30 分～2 時 30 分 講師:湯浅邦弘(大阪大学教授)  
11 月 28 日(日)午後 1 時 30 分～2 時 30 分 講師:矢羽野隆男(四天王寺大学教授)
- 【会 場】大阪歴史博物館 4 階講堂
- 【参加費】無料
- 【参加方法】当日直接会場へお越し下さい
- 【主 催】大阪大学・大阪歴史博物館・財団法人懐徳堂記念会



帰馬放牛図(部分)

# 法学研究科資料室へ行ってみよう！ ■シリーズ：資料室めぐり

法学研究科資料室は、豊中キャンパスの法・経大学院総合研究棟2階にあり、法学研究科・高等司法研究科所属の方に限らず、どなたでも利用できます。資料室にはOPACで検索した結果の画面で配架場所に「法資」と表示される資料を所蔵しています。

「法」に関わる多くの資料を取りそろえていますので、分野を問わず、法情報を必要とされる方はぜひご利用ください。



## その1

### 法学研究科資料室ってどんなところ？



Q1. 法学研究科資料室にはどんな資料がありますか？

A1. 資料は資料室1と資料室2の2箇所に分けて所蔵しています。資料室1は法学関係の和雑誌と日本の判例集を中心に、資料室2は洋雑誌と外国の法令集・判例集を中心においています。雑誌・データベースについては、総合図書館に所蔵のある雑誌や全学で利用できるデータベース以外にも、法学分野の研究を進めるにあたり必要なものを多数整備しています。利用できるデータベースについては資料室HPをご覧ください。

Q2. 法学研究科資料室の特色あるコレクションは何ですか？

A2. 貴重書として毎年いちょう祭で展示している、国内外の法学資料を所蔵しています。例えばルソー『社会契約論』初版本(1762年)などがあります。

また、特徴的なコレクションとして法学関係の記念論文集があります。日本のものについてはかなりの部分を、また海外のものについても多くを収集しています。

#### 記念論文集とは？

ある人物の還暦や退官など、また学会・機関・雑誌などの創刊や〇〇周年といった節目の年を記念して、関係者が論文を寄稿して論文集が発行されます。重要な論文がここに掲載されることもあり、引用・参照されることが多くあります。

いろとりどりにずら~っと並んでます！  
配列は被記念者(人名・学会など)の  
アルファベット順です。



## その2

### 学習・研究支援の取り組みのご紹介

Q3 . 2001年より「ロー・ライブラリー・ワークショップ」という企画を毎年開催しておられますが、これはどのような企画でしょうか？

A3. 主として判例・法令等の法情報に関わるリサーチ・スキルの修得を目的としています。法学研究科・高等司法研究科所属の方のみならず、法情報に関心のある方ならどなたでもご参加いただけます。

Q4 . 「ロー・ライブラリー・ワークショップ」をはじめたきっかけは何ですか？

A4. 大学全体としても、また法学研究科資料室も多くの資料やデータベースなどを整備していますが、それらを十分に使いこなせていない方々がまだまだ多いように見受けられます。「豊富な資料やツールをうまく使って、より充実した研究をしていただきたい」という思いからこのワークショップをはじめました。

Q5 . 参加者はどのような方が多いですか？

A5. 大学院修士1回生が多い、という印象があります。おそらく、本学における所蔵資料やリサーチ・ツールを確認しておきたい、という目的からだと思います。できれば学部1・2回生のうちから参加していただきたいのですが、現状では参加者が少数なのが気になります。大学の授業でこのような調査・研究方法の詳細について学ぶ機会はそれほど多いとは思いませんので、このワークショップ等を利用してぜひとも早いうちにリサーチ・スキルを修得していただきたい。

もちろん、この機会を逃した方でも、法情報にかかわる調査・研究方法で疑問点などあれば、お気軽にご相談ください。資料室のメンバーがお答えいたします！

大阪大学大学院法学研究科資料室

<http://www.law.osaka-u.ac.jp/library/>

TEL 06-6850-5179

開室時間：平日 9：00～20：00

(ただし、授業休業期は17：00閉室)

土・日・祝日は閉室

資料室1のようすです。職員が常時おりますので、資料の貸出手続きやデータベースの検索もこちらでできます。



・・・ 教員著作寄贈図書のご紹介 2010.July ~ August ・・・

寄贈者氏名 (所属)※敬称略	書名
海崎純男 (名誉教授)	Physical inorganic chemistry : principles, methods, and models
鄭聖汝 (文)	한국어 연구의 새지평 (韓国語研究の新地平)
藤原順介 (工)	図説図学
貴志雅之 (言語文化)	二〇世紀アメリカ文学のポリティクス
杉田米行 (言語文化)	知っておきたいアメリカ意外史 (集英社新書:0556D)
堀江新二 (言語文化)	俳優の仕事 第3部
江口太郎 (博物館)	巨大絶滅動物マチカネワニ化石：恐竜時代を生き延びた日本のワニたち (大阪大学総合学術博物館叢書；5)
竹田新 (世界言語セ)	アラビア語学習到達度評価システム開発の基礎研究



ギャラリー理工学図書館で「大阪大学鉄道研究会写真展」を開催

理工学図書館西館の1階及び2階で、7月20日から8月20日までの間、大阪大学鉄道研究会写真展をおこないました。鉄道写真のほか、鉄道研究会の活動紹介、機関誌の展示・頒布、関連書籍の紹介もおこなわれました。



総合図書館で展示会を開催

総合図書館では、所蔵資料の紹介を兼ねて、次のとおり資料展示をおこないました。

- 6/2 ~ 7/12 「安全衛生展示」  
全国安全週間 (7/1 ~ 7/7) に関連し、安全衛生管理部の全面的な協力を得て、安全衛生に関する資料のほか、保護メガネなどを展示しました。
- 7/12 ~ 8/6 「万国博覧会」  
万国博覧会に関する資料、特に大阪万博 (EXPO' 70)、国際花と緑の博覧会 (EXPO' 90) に関する資料などを展示しました。
- 8/6 ~ 8/31 「大阪大学の歴史」  
「大阪帝国大学創立史」のほか、節目にあたる年に発行されてきた資料を中心に、適塾・懐徳堂に関する資料も展示しました。



## 理工学図書館 工学部オープンキャンパスに参加

理工学図書館は、昨年度に引き続き今年も8月10日の工学部オープンキャンパスに参加しました。当日は、終日自由見学としたので、早朝から夕方まで見学者が絶えることがなく、1,713名もの多くの方が来館されました。

「図書館見学ツアー」で、ラーニング・commonsのほか、大学図書館の特色ある設備を中心に紹介したほか、「スタンプラリー」をおこない、全てのスタンプを集めた方には理工学図書館オリジナル葉を配布し、好評でした。また、鉄道研究会会員による写真展のギャラリートークがおこなわれました。



## 図書館キャンペーン Web サービスが便利

総合図書館では、8月から「いつでも、どこでも、web サービス」のキャンペーンをおこなっています。

「貸出中の本を予約したい」「返却期限日を知りたい」「貸出期間を延長したい」そんな時こそ、Web サービスが便利です。

[http://opac.library.osaka-u.ac.jp/req/userguide\\_basic.htm](http://opac.library.osaka-u.ac.jp/req/userguide_basic.htm)



## 「図書の購入」「図書の寄贈」「図書の資産登録」

大阪大学で購入する図書の事務手続き、寄贈される図書の事務手続き、図書の資産登録について解説した資料をウェブページに掲載しましたので、ご活用ください（一部、学内のみの公開となっています）。

[教員向け]

- 資料の購入に伴う事務手続きについて解説しています。
- 寄贈された資料を大学の資産として登録する方法について解説しています。

<http://www.library.osaka-u.ac.jp/ukeire/konyu.htm>

[学生向け]

- 学生用図書のリクエスト方法について解説しています。

<http://www.library.osaka-u.ac.jp/ukeire/konyu.htm>

[寄贈を考えておられる方向け]

- 資料をご寄贈いただく場合の事務手続きについて解説しています。

<http://www.library.osaka-u.ac.jp/ukeire/kizo.htm>



## 要覧ダイジェスト版 2010 発行

附属図書館の概要をコンパクトにまとめた「要覧ダイジェスト版 2010」を発行しました。ウェブページからダウンロードできます。ご活用ください。

<http://www.library.osaka-u.ac.jp/yoran/yoran.htm>